

福祉 ぐんま

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

NO. **227**
2009 冬号

特集

ぐんまボランティアフェスティバル
西部ブロック

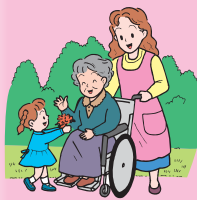
社会福祉法人 昭和ゆたか会
地域活動支援センター・デイサービスセンター
高木 順子さん
(関連記事は8ページに掲載)

■主な内容

- * 県社協宮下会長あいさつ...3
- * 沼田市認知症にやさしい地域づくりネットワーク...4
- * 民間社会福祉施設等関係者海外研修報告...5
- * 社会福祉協力校の紹介...6
- * ハート to ハートミュージックフェスティバル...6
- * セミナーのお知らせ...6
- * 共同募金会からのお知らせ...7
- * 素敵な笑顔...8

特集

ぐんまボランティアフェスティバル
西部ブロック開催!!



「ぐんまボランティアフェスティバル西部ブロック」(同ブロック実行委員会、県社会福祉協議会、県ボランティア連絡協議会主催)が10月18日、高崎市

の「もてなし広場」や「高崎・地域医療センター」、「高松中学校」を会場に開催され、女優の荒木由美子さんの講演会をはじめ、さまざまな催しが行われた。



記念講演より

本フェスティバルは、平成18年11月に開催された『第15回国ボランティアフェスティバルぐんま』大会での成果を継承し、昨年度より、本県の地域ボランティア活動の振興を図るため、

県内5つのブロックを持ち回りながら開催し、本年度で第2回目となった。

準備段階や広報PR活動、当日の運営スタッフなどに県内の学生ボランティアが積極的に参画し、青年層のボランティア活動推進の一助となったと共に、県内のボランティア・市民活動の発展という点では特徴のある大会になった。

大会テーマの「笑顔のかけ橋」は、『第15回全国ボランティアフェスティバルぐんま』から継承しており、テーマのサブタイトルである「やさしいなかま」は、県内より応募のあった作品の中から選考し、決定したもの

で、ポスター・チラシの原画同様に様々なものが、地域住民発の手作りのものとして行われた大会となった。

記念講演では、荒木さんが「家族の絆」感謝の気持ちを言葉にしようをテーマに、義母の介護体験を語った。

「夜の徘徊など片時も目を離すことが出来ず大変な苦労があった」と涙声でつらい思い出を披露されると共に「実母ではなく夫の母だったので、看護師に徹して右から左で笑顔で接することもできた」と時にユーモアを交えながら、20年間の体験談を話した。

また、災害時の役割を考える機会やハーモニカ演奏を通して昭和の歴史を語る等、日常的なボランティア活動の紹介や地域にボランティア活動を広げていくための様々な機会として6つ



分科会より

のテーマからなる分科会を開催し、ボランティア・市民活動の推進のための研究会を行った。

その他にも、もてなし広場で行われた「ふれあい広場」では、県民のふれあいの心のふれあう町づくりを目指し、西部ブロック内の社会福祉協議会やボランティア活動団体を中心とした活動紹介、模擬店やバザー、歌やダンスなどのステージイベント

にも大勢の人が参加し、県内のボランティアやNPOなどが交流を深め、ボランティア・市民活動の啓発・普及の大きな機会となった。

来年度は、吾妻ブロックでの開催を予定しており、地域の特性を活かしながら、一層の地域ボランティア・市民活動の振興の一助として参りたい。



ふれあい広場より

分科会レポート

ふれあい・いきいきサロン

～元気に楽しく仲間をつくらう～

会場 地域医療センター4階ホール

群馬県ふれあい・いきいきサロン推進連絡会と県社協ではサロンの分科会を担当しました。

まず始めに、「生きがい・ふれあいを求めて」サロンに参加してみませんか」と題して、高崎市大類公民館図書ボランティア(代表 羽鳥基子さん)の皆様がサロンへの誘い出し

方、サロンの内容などをわかりやすく実演しました。例えば、ご主人を亡くし、一人暮らしの女性、定年後の男性等、出たがらない人への声の掛け方等、日頃サロン活動に携わる人に共通する課題が取り上げられました。

続いて、3人の方が事例発



「サロンに来てみませんか？」

表を行いました。

- ・高崎市矢中地区民児協子育てサロン 井上眞弓さん
- ・太田市台之郷3区いきいき

年頭のごあいさつ



社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会 会長 宮下智満

平成二十一年の新春を健やかに迎えたいと存じます。昨年は人と人との心をつなぐ映画「ふみ子の海」の上映活動に、市町村社協を始め多くの皆様の熱心な協力を頂き、二万五千人を超える人たちにみて頂くことができました。感動の声がたくさん寄せられております。この

映画から生きる勇氣と福祉の心を学び、心豊かな地域づくりに役立ててほしいと願っています。年は改まりましたが、福祉をめぐる環境はさらに厳しさを増しているように思います。特に大きな問題は福祉・介護人材の不足です。ますます進む高齢社会の中で、介護の担い手不足は深刻な問題です。若い人たちが魅力を感じ、誇りと自信を持って働き続けられるような環境を緊急に整備する必要があります。その他にも課題は山ほどあります。厳しい環境下ではありますが、安心して暮らせる地域社会をめざし、明るく楽しく元気よく、ともに頑張っていきましょう。

サロン大澤クラ子さん
・甘楽町おたっしや会 富田文江さん
できることから始め、長続きさせるには、人の力、担い手同士の連携が不可欠ということがポイントとして挙げられました。

・昼間でなく、夕方にかけて開催したら参加者が増えた。(地域による)
・グループが嫌という人を誘い出すのは難しい。

また、最後に参加者全員参加型のグループ討議を行いました。

他、たくさんの方の意見ができましたが、どこのサロンも悩みながら一歩一歩進み、地域との連携を広げている様子が伺えました。

主な課題として挙げられたことをいくつか紹介いたします。
・男性の参加者が少ない。

・参加者の固定化、本当に参加して欲しい人に参加してもらえない。
・担い手が少ない。
・区長やボランティアの協力が得られない地域がある。
いかに協力者になつてもらおうか。
・回覧板は見ない人が多い。個人あての通知や声掛けが有効。



「うちのサロンはこんなことやってるよ」

沼田市認知症にやさしい地域づくりネットワーク

平成十七年度に構築された沼田市認知症にやさしい地域づくりネットワークは、沼田市内の関係機関・団体及び関係者の参画のもと、支援を必要としている方々への見守りをはじめ、緊急時における支援体制として構成団体等の連携と協力により要援護者の支援に一定の成果を上げています。

今回は、事由の発生から発見までのシステムを検証し、本ネットワークをさらに進めるために行われた模擬徘徊訓練についてご紹介いたします。

ネットワーク構築の背景

平成十五年に隣接する自治体で認知症高齢者が所在不明になり懸命な捜索活動にも関わらず現在も発見されていない事故が発生した。このような事故を防ぐためには多くの目で日頃から見守るシステムが重要であるとの認識にもとづき、見守りネットワーク構築のための事例研究が行われた。

見守りネットワークの構築

見守りネットワークは、沼田市、沼田市社協、沼田市在宅介護支援センター協議会が中心となり警察署、広域消防本部、民生委員児童委員協議会、福祉施

設、農協、郵便局、地元FM局等三十五の構成機関と六十一の協力機関・企業等のネットワーク団体で構成された。(現在は四十二の構成機関と百十八協力機関)

ファックスネットの構築

ネットワークが構築されてからは、関係者の機運も高まり、同報ファックスにより情報の迅速化を図りネットワークを進めている。現在ではメールによる配信も同時に実施している。

所在不明者の捜索は、警察署が窓口となり、二十四時間体制で対応し、ネットワーク協力団体・企業・登録者等へ一斉ファックス・一斉メールで情報提供し、発見された場合も同様



訓練の様子 (一番右が徘徊役)



訓練の報告会・反省会

に送信される仕組みが構築された。また、地元FM OZEの協力により、放送中の番組を中絶し情報を提供している。

模擬徘徊訓練

平成二十年十月十九日午前九時三十分徘徊開始。

想定は、沼田市内の家族と同居している中度の認知症高齢者が徘徊により所在不明となり、家族の捜索では発見できなくなり警察署へ捜索を依頼。

警察では認知症にやさしい地域づくりネットワーク構成団体に不明時の情報を一斉送信・一斉メールを送り協力を依頼した。関係者は百ほど離れ発見の状況を取材したり、本部への報告など事由の発生から発見までのプロセス等を分析した。

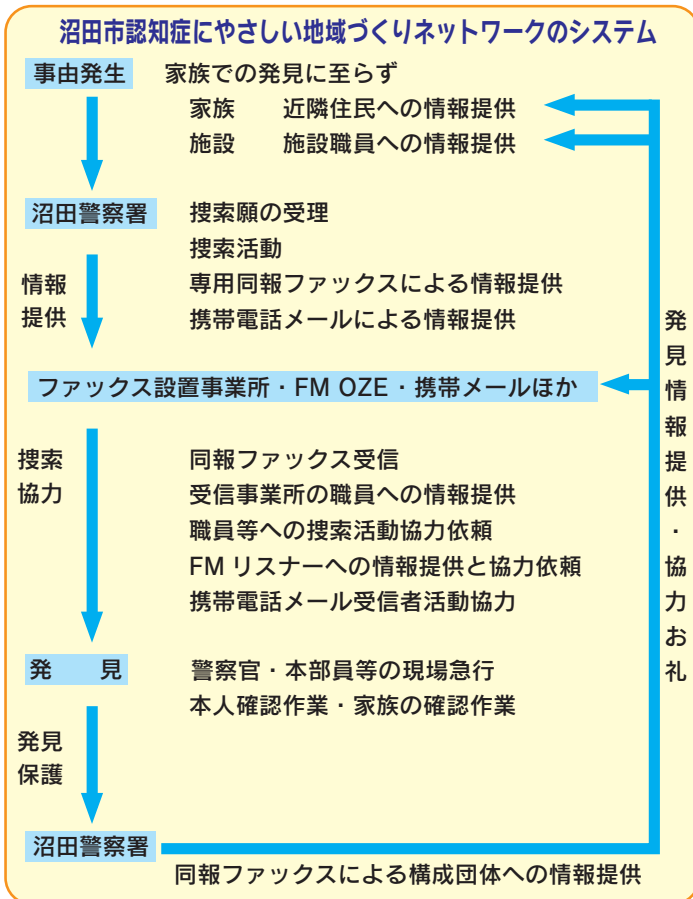
今後の課題

前回の徘徊訓練では、発見情報どこから入ってくるかを検証し、今回は、徘徊者の発見時における接し方についてを中心に訓練を行った。

しかし、発見通報してくれた九人のうち、五人の方が専門医から対応の指導があった。

住民への認知症の理解を深めることが重要であることから、さらにサポーター養成講座や講演会など、住民の理解のための啓発が必要だと理解された。

発見情報提供・協力お礼



民間社会福祉施設等関係者海外研修報告

平成20年度民間社会福祉施設等関係者海外研修が、去る11月2日から9日の8日間実施され、本会の深堀 充常務理事を団長とした総勢17名が、フィンランド、ドイツを視察し、各種社会福祉施設等を訪問してきました。

訪問国…：フィンランド

フィンランドでは4ヶ所を訪問し、行政関係では「社会保険庁事務所」、高齢者福祉施設では「コテイカリオサービスセンター」、児童福祉施設では「スオメノヤン保育園」、障害者福祉施設では「オーラ・インスティテュート」を視察しました。

社会保険庁事務所では、いわゆる北欧型の「高福祉・高負担」(国民が充実した福祉を享受するため、高い税金等負担すること)であるフィンランドの社会保障制度について学びました。国家・地方自治体による教育・医療・社会福祉分野の取り組みの中で、予算配分競争があり、教育・医療に関する予算が優先され、社会福祉、とりわけ高齢者福祉分野に対する予算を少なくしようとする考え方があるとの説明は印象的でありました。



フィンランド・オーラインステイテュートにて

また、高福祉・高負担に対し、国民から反対意見もあるとのことでしたが、一方で「福祉水準を落とすな。」との声も強く、フィンランドも少子高齢社会の中で、制度維持を図っていくことに苦心していることが感じられました。

また、フィンランドの教育は、基礎教育から大学(全て国立)まで、教育費が全額無料とのことでありますが、大学入学等はかなり難関とのことでした。一方で教育目標は、「落ちこぼれを作らない。」との説明もありました。

さらに、フィンランドでは、アルコール依存症、うつ病等、こころの病を発病する人が多いとのことであり、天気も晴れの日は少なく、冬も寒い気候や環境で生活している人々の厳しい現実の一面も感じました。

訪問国…：ドイツ

ドイツでは3ヶ所を訪問し、行政関係では福祉介護保険機関

での「介護保険セミナー」、障害者福祉施設では「レゲンスワグナーミュンヘン」、高齢者福祉施設では労働者福祉団体が運営する「老人ホーム(AWO)」を視察しました。障害者・高齢者福祉施設とも、利用者の考え方、人権を尊重している様子が、施設の運営や居室の状況から感じられました。

介護保険セミナーでは、日本のモデルとなったドイツの介護保険制度について学びました。

ドイツの介護保険と医療保険は一体とのこと、やはり、在宅重視の考えであり、(ドイツでは家庭での介護者にも介護手当を支給している。)利用者が住



ドイツ・老人ホーム(AWO)にて

み慣れた家庭や地域で暮らしたいとの要望が多く、そのため、高齢者の生涯学習等が盛んであり、介護予防の考え方が広がっています。

一方で、重度の要介護者は、在宅生活は難しいため、施設も今後倍増していくとの方向であるとのことでした。

そのような中、制度改正後、10年程状況を見ないと、結果や今後の方向はわからないという話が印象的であり、利用者や関係者がお互い幸せになる関係(ウインウインの関係)を築くことを理想としつつ、財政状況が厳しい中、苦悩しながら制度運用している状況が伝わりました。

研修中、比較的天候にも恵まれ、参加者全員元気で、視察先では、質問等も沢山出され、度々予定時間を過ぎてまで学び取る

うと熱心に取り組んでいる姿勢に心強く感じました。

一方で、せっかくのフィンランド・ドイツでの海外研修ですので、参加者皆さんが楽しい研修にしたいとの気持ちも感じられました。

また、視察先の方々も「とても良い時間が持てた。」とのことあいさつもあり、大変充実した研修が出来たと振り返っており、そして、私達の研修をたたえるかのように、帰りの機窓からオーロラが見られ、一層感動深い研修になりました。

最後に、ご参加いただいた法人・施設の役員の皆様に感謝し、無事研修を終了したことをご報告いたします。

団長 深堀 充

(群馬県社会福祉協議会 常務理事)



フィンランド・社会保険庁事務所にて

社会福祉協力校

桐生市立黒保根小学校

本校は桐生市の市街地から車で30〜40分ほどの距離に位置しています。町の南端を国道122号線が通っており、行楽シーズンには多くの観光客が訪れます。北西に赤城の黒檜山、長七郎山を仰ぎ、南東に渡良瀬川が流れ、多くの高い山々に囲まれた自然豊かな環境の中にあります。

福祉教育の目標
 研究主題「思いやりの心を育てる」とのふれあいを通して「〜」を設定して社会福祉協力校として3年間実践を進めてきました。「思いやりの心を持ち生命を大切に育つ子、よりよい生活をするために工夫できる子、他人のために具体的な活動に取り組める子」の育成を目指すことが福祉教育の目標です。

取り組み内容の紹介
 活動内容は、1 高齢者との交流、2 福祉体験学習の推進（4年）、3 校内交流の推進、4 年）、5 校外交流の推進、6 年）を育てる活動、5 人権教育の推進です。全学年が、生活科や総合的な学習の時間、特別活動などを中心に体験活動を重ねてきました。その中で、いくつかの活動を紹介します。

1・2年生は、生活科でさつまいもを育てました。春に苗を植え、秋に町内の高齢者の方々と一緒にさつまいも掘りをします。そのあと、あやとりなど昔の遊びを教えたり、一緒にふかし芋や給食を食べたりと楽しくふれあい交流をしています。

運動会では、地域の高齢者の方々に全校児童で招待状を書いていきます。当日は、1・2年生から来

場してくださった方へお礼の手紙を読み、花束のプレゼントをしています。

また、4年生は、総合的な学習の時間に、プラインドウォークや車いす体験を通してバリアフリーについて学びました。体験から、目の不自由な人や、足の不自由な人の気持ちになつて、改めて自分たちの生活を持つことができた。3学期には、校区の福祉施設を訪問し、劇や紙芝居などをして、高齢者の方々と交流をする予定です。

本校では、学年を越えた「なかよし班」を作っています。なかよし班会では、6年生が中心となつて一緒に遊びます。また、年10回ほどのたてわり掃除もなかよし班で活動します。秋に行われるなかよし遠足では、自分たちで場所を選択し、隔年で桐生市街地と黒保根町内へ遠足に行きます。学年を越えた活動は、下学年を思いやるやさしい心と、上学年へのあこがれや尊敬の気持ちを育てることができま

3力年の成果と課題
 以上が本校での福祉教育3年間に実践した活動の一部です。地域の方々や他学年との諸活動の中で、たくさんの方々のふれあいを通じて児童に思いやりの心が育つてきました。充実したものにしていきたいと思



さつまいも掘り

なかよし遠足

運動会

第十六回 ハートtoハート ミュージック フェスティバル



県社協厚生事業部会主催による第十六回「ハートtoハート ミュージックフェスティバル」が、十月十七日（金）、前橋市総合福祉会館多目的ホールにおいて開催されました。

参加者は主に障害者施設の利用者を中心に関係者を含めて約330名でした。

今年度は、① 県身障連のカラーオケ大会上位入賞者（三名）による熱唱、② 小田澄江フラメンコ教室の皆さんの華麗で情熱的な「フラメンコ」、③ 昔懐かしい「高崎チンドン倶楽部」によるアトラクション、④ 松本梅征さんとお弟子さん達による迫力の「三味線三味」という素晴らしい内容で、会場は大いに盛り上がりしました。

（事務局）



利用支援グループからセミナーのお知らせ

○ 福祉サービス苦情解決セミナー

・ 社会福祉事業者の苦情解決事業の一層の理解と苦情解決体制の整備等について研鑽を深めます。

【日時】 平成21年1月20日（火）13時〜16時25分

【会場】 前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町2の17の10）

○ 成年後見人等基礎研修会

・ 成年後見制度の概要、手続き、後見人等の職務や身上監護の実務等基礎知識の研鑽。

【日時】 平成21年2月3日（火）13時20分〜16時30分

【会場】 県社会福祉総合センター（前橋市新前橋町13の12）

○ 地域福祉権利擁護セミナー

・ 日常生活自立支援事業の事業内容について改めて振り返り、実践報告を通じて事業の推進を図ります。

【日時】 平成21年2月24日（火）13時30分〜16時

【会場】 前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町2の17の10）

【連絡先及び申込先】

利用支援グループまで

☎ 027-255-6226
 FAX 027-255-6173

共同募金

赤い羽根情報



<http://www.akaihane-gunma.or.jp/>

社会福祉法人 **群馬県共同募金会**

前橋市新前橋町13番地の12
群馬県社会福祉総合センター4階
TEL027-255-6596 FAX027-255-6214
e-mail:info@akaihane-gunma.or.jp

♡ 平成20年度共同募金運動 ♡

今年度もご協力ありがとうございました!

10月1日～12月31日に全国一斉に展開された共同募金運動の結果について、現在、募金額を集計中です。厳しい経済情勢にもかかわらず、多くの方々にご協力いただき、誠にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

～ありがとうメッセージ～

沼田市社会福祉協議会白沢支所
子育てサークル支援事業



白沢町親子サークルましゅまろくらぶでは、週に一度集まっておしゃべりをしたり、遊んだりして親子で楽しい時間を過ごしています。

共同募金の配分により子供達も楽しい遊具で遊ぶこ

とができてとても嬉しそうです。

赤い羽根募金



10月1日～12月31日

スローガン『地域の福祉、みんなで参加』

●●●募金のつかいみち●●●

福祉施設や保育園の改修工事、学童クラブの備品整備、障害者自立活動支援、一人暮らし高齢者への配食サービス・移送サービス、安心安全なまちづくり活動支援

～ありがとうメッセージ～

昭和村デイサービスセンターさん 楽器購入



沢山の楽器を購入することができ、大変感謝しております。叩く、振るといった簡単なアクションで音が鳴り、利用者全員が大喜びしております。初めて見る楽器もあるようで、新鮮な

体験も味わってもらうことができました。本当にありがとうございました。

地域歳末たすけあい募金

12月1日～12月31日

スローガン『みんなでささえあう

あったかい地域づくり』



●●●募金のつかいみち●●●

市町村社会福祉協議会が行う歳末慰問金品贈呈、おせち料理配食サービス、歳末ふれあい交流会

ご協力、
ありがとう
ございました!



共同募金への寄付金には税の特典があります

- 会社などの法人は、寄附金を全額損金算入できます。
 - 個人の寄附金は、所得税及び住民税に係る寄附金控除の対象となります。
- この特典を受けるには、所定の領収書により確定申告をする必要があります。

詳細については上記記載の群馬県共同募金会まで

NHK歳末たすけあい

12月1日～12月25日

スローガン『あなたのやさしさを』

●●●募金のつかいみち●●●

小規模施設の施設整備・備品整備事業や、養護児童等の自動車免許取得支援



デイサービス 燦 高木 順子さん

冬号表紙

素敵な笑顔

高木順子さんは現在、昭和村にある社会福祉法人 昭和ゆたか会地域活動支援センター「デイサービスセンター」(燦) (大竹繁 施設長) に勤務される生活支援員さんです。



※福祉職を選んだきっかけは

自分が幼稚園に通っていたころ、先生が大好きだったんです。それで幼いころから保育士を目指していました。学校は保育士系の学校だったんです。実習に知的障害者の入所施設にいったところ、そこでは利用者がのびのびと輝いていたんです。職員も「共に生きる」という感じでした。魅力を感じたんですね。

※いま高木さんは群馬県介護福祉士会の会長でもありますね。

会長になって6年目になります。9月に全国大会が渋川市であり、おかげさまで無事に終了することができました。

※最近楽しかったことはありますか？

十一月三日に行われた県民マラソンに利用者さんと参加したことです。約四キロを完走しました。

取材の当日は、秋晴れの好天に恵まれました。インタビューは事業所で行いましたが、予定時刻より少し押し進めてしまいましたが、急ぎ足で仕事に戻る高木さんの後姿は、普段の仕事ぶりを映し出しているようでした。この日の星はきつと美しかったに違いありません。

※感動したことは？

たくさんありすぎてわかりませんが、施設の辺りを歩いていて、天気がいいと感動することもあります。

※これから福祉職を目指す方へのメッセージをお願いします。

人とかかわりが好きなのが向いているように思います。この仕事によって、自分のなかで犠牲になる部分もあるかとも思いますが、福祉の仕事の世界に入るときの思い・気持ちを忘れないでほしいと思います。

※ありがとうございます。最後にご自身の目標をお願いします。

今いる利用者さんの目標を実現してみたいです。利用者さんが満足できるものを探していくことが目標になるのでしょうか。

住宅用火災警報器を設置して大切な家族を火災から守りましょう!

●既存住宅…平成20年6月1日から義務化スタート!!

なぜ火災警報器が必要なのですか？



火災警報器はどこに取り付けるのですか？

取り付けが義務付けられている所 (寝室・階段)
取り付けをおすすめする所 (台所・全ての居室)



編集/発行
社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会
〒371-8525 (専用郵便番号)
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター内
TEL 027-255-6033(代表)
FAX 027-255-6173
URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>
E-mail soumu@g-shakyo.or.jp
発行日 平成21年1月1日